

令和3年度 第2回浦安市郷土博物館協議会（書面会議） 議事録（議事要旨）

令和3年度第2回郷土博物館協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常の会議を開催せず、書面会議とした。

1 会議の流れ

資料送付	令和4年3月11日（金）
委員からの意見提出期限	令和4年3月21日（月）
議事録案作成	令和4年3月25日（金）
議事録案確認・確定	令和4年3月29日（火）

2 出席者

（委員）明保治男委員長、館里枝副委員長、大村洋子委員、石川三佳委員、前田智幸委員、吉野忍委員、男全寛子委員

3 議題

- （1）報告事項 令和3年度 郷土博物館事業報告について
- （2）協議事項 令和4年度 郷土博物館事業計画（案）について

報告事項について、資料により、委員から提出された質問・意見に対して書面での回答を行った。その内容については別添のとおりである。

協議事項について、採決書により、委員の全員の承認を受けた。

なお、委員から提出された意見に対して書面での回答を行った。その内容については別添のとおりである。

(別添)

**令和3年度 第2回浦安市郷土博物館協議会（書面会議）
質問・意見及び回答一覧**

(1) 報告事項

令和3年度 郷土博物館事業報告について・・・・・・・・・・ P 1

(2) 協議事項

令和4年度 郷土博物館事業計画（案）について・・・・・・・・ P 5

報告事項 令和3年度 郷土博物館事業報告について

資料名	質問・意見	回答
事業報告一覧	質問	回答
	<p>事業名「休日体験」が、実施回数は昨年度より少ないにもかかわらず参加者が多いのはなぜか。</p>	<p>2年度・3年度実施することができた「勾玉づくり」においては、対象年齢を引き下げ、親子で参加できるようにしたことから、3年度の参加者数が倍増しました。また2年度実施することができなかった、親子で参加する「船造り体験」が、3年度は実施することができたなどが要因として挙げられます。</p>
	<p>事業名「文化財の活用」にある銭湯体験は、文化施設から出て実際の銭湯を体験したという事か。</p>	<p>宿泊体験では、フラワー通りにあった「米の湯」に行き、昔ながらの銭湯を体験しました。浦安にはかつて銭湯が多くあり、海から帰ってきた漁師のためにお湯が熱かった、など、浦安ならではの銭湯の特徴について学びます。しかしながら、この銭湯が廃業してしまったため、現在体験内容の見直しが必要となっています。</p>
	<p>事業に大人の参加者が増えてきているようだが、どんな感想・要望がきているのか。</p>	<p>「貴重な体験ができた」「親子で参加できてよかった」などのご感想をいただいております。海苔すき体験やお手玉・ねつけづくりでは、親子での参加だけでなく、大人だけで参加される方も増えており、大人の参加者が子どもの参加者に教えてあげるなど、参加者同士の交流も生まれています。</p>
	意見	回答
	<p>コロナ禍は今後も長期化すると思われるので、感染対策を設けながらも実施できる方法や、代替日を設けるなど、できる範囲で実施回数を増やせていけたらよい。</p>	<p>コロナ禍で、人数の制限や、人との接触、発声・食事の制限などの感染対策を徹底しながら、各種体験や事業を実施してきました。今後の実施に当たっては、新型コロナウイルスの影響の長期化やアフターコロナを見据えつつ、コロナ禍での経験も生かして、オンラインの活用や、開催日を再設定するなどの柔軟な対応を考えていきながら、充実を図ってまいります。</p>
	<p>浦安の伝統芸能・文化を継承している団体を支援していくことを引き続き大切にしてほしい。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響により、各団体の練習や発表の機会が減少していますが、引き続き、感染対策と両立した活動について検討してまいります。また、各学校での郷土文化に関する体験として行う、出張授業の支援を引き続き行ってまいります。</p>
	<p>伝統文化を継承する後継者育成の積極的支援をお願いします。</p>	<p>文化財団体は、どの団体も、会員数の減少と高齢化が課題となっており、ホームページや広報番組などを活用し、後継者の育成や会員の確保などについて、特に支援してまいります。</p>
	<p>各事業の状況報告からも、それぞれの事業からどのような学びを提供しようとしたのか、そして、どういった成果があったのか、きちんと評価されている。</p>	<p>郷土博物館の運営に当たって、現在の状況を把握した上で、ご意見等をいただきながら、運営上の課題を整理し、これらに対応していくことで、当館の運営の改善を図ってまいります。</p>

	意見	回答
参考資料1 郷土博物館運営の基本的考え方について	基本的考え方がしっかりしているから、充実した事業展開がなされている。基本コンセプトを意識した事業実施がよい成果につながっており、基本コンセプトの内容も適切である。	平成13年4月のオープンから、4つの基本コンセプトを中心に、事業運営を進めてまいりました。 また埋め立て以降のまちの発展を伝える展示を加わるテーマ展示室等リニューアルを現在進めており、これらを踏まえて、運営の点検、評価を実施していきながら、浦安の魅力を新たに発見できる郷土博物館となるよう、より良い運営を目指します。
参考資料2 郷土博物館事業報告	質問	回答
	文化財住宅の入館者数が昨年度より大幅に減少しているのはなぜか。	2年度より、両家の入館者が847人減少しており、そのうち市外者が829人を占めています。新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、以下の期間、市内者のみに限定しています。 2年度：6月2日～15日 3年度：4月28日～10月25日、1月21日～3月31日
	利用団体が昨年度より減った原因は何か。その中で、今期増加した市外の団体はどこから、どんな団体か。	3年度は、10月から団体の見学を再開しました。9月末まで緊急事態宣言が発出されていた状況などがあり、市内の福祉施設等からの利用は減少しましたが、市川市・船橋市・千葉市・江戸川区などの近隣からの団体が多くご来館いただきました。
参考資料3 ジュニア学芸員活動実績報告	意見	回答
	参加した児童・生徒一人一人により学びが提供されている。10ページの下部に「～各個人の事情は様々である～」との記載があり、こういったことは仕方のない、当然のことでもあるように感じる。どのようなかたちであれ、ここでのよい学びは子どもたちのためになっている。将来的なボランティアの安定供給に直接つながらないことがあるとしても、博物館でのこのよい学びは、「浦安を、地域を大切にする」という意識をもった市民を育成することにつながる。	ジュニア学芸員講習では、受講生の主体的な学びを促すため、学芸員や博学連携担当職員による知識の伝達は必要最低限になるよう心掛けています。そのような講習を行うことで、受講生は展示解説を行うために「足りない資料を自ら進んで調べ」「自分で解説原稿をまとめ」「原稿内容を仲間と精査し」「実際に展示解説を行い」「解説内容や解説方法を改善する」というサイクルで学習を行うことができ、学んだ知識の定着や、課題解決能力の向上につながっています。
	今期はジュニア学芸員の誕生が特筆すべき点であった。素晴らしい事業であり、今後も継続してほしい事業である。	4年度は「基礎講座」の継続により新たな認定者を増やしながらか、また合わせて、より専門的な「応用講座」を実施することで、ジュニア学芸員として活動している児童生徒の活躍の場を広げてまいります。
	ジュニア学芸員について、受講者数に対してイベントへの参加者が少なく感じる。参加を促す何らかの対策をするべきである。	イベントへの参加に関しては、当初ホームページ上で呼びかけたところ参加者数が少なかったことから、学校を通して手紙を配付するようにしたところ参加者が増加しました。引き続き、一人一人に確実に参加を促すことができる連絡方法の確立を検討してまいります。

<p>参考資料3 ジュニア学芸員活動 実績報告(つづき)</p>	<p>郷土愛を育み、郷土への誇りをもてる取り組みとしてのジュニア学芸員制度の創設には非常に興味を持っている。習得して知識を生かした活躍の場を広げるべきである。 とくに、中町や新町の子らに積極的に広げていくべきである。例えば、高洲に「漁業記念公園」があり、そこに竜宮のポンギのモニュメントがある。これなども、近隣の小学校などの教材としてもっと利用できる。</p>	<p>ジュニア学芸員は、計画段階から、習得した知識をアウトプットして博物館ボランティアとして活動してもらうことを目的としており、中町・新町を含む市内全域から参加しています。 博物館で発行し、学校でも活用している文化財マップや文化財めぐりでは、旧町の文化財・史跡だけでなく、中町・新町の漁場跡などを紹介しています。今後はさらに、中町・新町にも海の名残があることを紹介・活用しながら市全域で郷土に愛着を持ってもらえるように、文化財審議会と連携しながら情報を整えていきます。</p>
<p>参考資料4 令和3年度 博学連 携の取り組みについて</p>	<p>意見</p> <p>全ての幼稚園・保育園、小中学校に博物館から同じ良質の教育支援がなされ、教育現場でもそれが活用されていることが素晴らしい。子どもたちには多様な学びが必要であり、博物館と連携することから、実物から学ぶ、体験から学ぶ、そして、教員以外の人(ボランティア、専門家である学芸員)から学ぶといったことができている。</p> <p>博学連携事業は従来博物館に子ども達が足を運んできたが、環境に応じて出張授業に切り替えて実施できたことはよかった。</p> <p>今年度の活用推進委員の研究の成果が今後生かされるようにしてほしい。</p> <p>郷土博物館活用推進委員が学校により温度差があるのが残念である。熱心ではない委員の学校は子ども達の郷土への思いを醸成させる機会を失わせているのではないか。</p>	<p>回答</p> <p>幼稚園・保育園・こども園、小中学校それぞれの段階で博物館での体験を行い、継続的な利用を行うことによって、郷土愛を育んでいます。引き続き、実物資料を使った体験や、ボランティアとのふれあいを通し、教室では体験することのできない学びを提供してまいります。</p> <p>新型コロナウイルスの影響により、小学校6年生が実施する「火おこし体験」を出張授業にしたことで、参加できる校数が増加したという効果がありました。また、室内での体験となったため、火がおこしやすく、児童の成功体験につながりました。 また「火おこし体験」と同日に博物館で行っていた土器・石器体験に関しては、土器や石器の実物やレプリカを使って学芸員が解説する動画配信を行うことで、学校だけでなく、家庭でも学習できるようになりました。 一方で、博物館体験には、児童生徒が昔の人のくらしや苦勞に寄り添い、歴史学習への興味関心を喚起するという意義目的もあることから、体験のあり方を含め、検討してまいります。</p> <p>活用推進委員会では、小学校3年生「市のうつりかわり」(社会科)、小学校5年生「環境を守るわたしたち」(社会科)、中学校3年生「郷土を愛する態度」(道徳)の単元の中で、浦安の歴史や環境をより意識した授業計画を作成し、実践しました。その成果や課題を踏まえ、4年度以降の取り組みにつなげてまいります。</p> <p>基本コンセプトの一つである「学校教育に生かせる博物館」を推進するため、各学校から選出される活用推進委員は、「浦安を学ぶ」研究など重要な役割を担っています。引き続き、各委員や学校との共有を図っていきながら、理解を求め、進めてまいります。 2年度からは、新型コロナウイルスの影響もあり、5回予定していた会議のうち2回は、動画配信による報告・説明に替え、委員の負担軽減にも努めています。</p>

	意見	回答
参考資料6 ふるさと浦安作品展	この作品展に参加できるような成果物を仕上げるといった学びの体験をした子は、自分で調べたことをまとめたり、自分の考えや主張を整理するような力を培うことができる。現在、各中学校の生徒の参加も多くなっているとのこと、各小中学校の先生方のご努力にも頭がさがる思いである。	近年では、提案型の作品が増えており、児童生徒がまちづくりに関心を抱き、自ら課題を発見し、主体的に作品作りに取り組むことができています。前の研究を踏まえた上で次の作品づくりを行っている児童生徒もおり、継続的な取り組みにつながっています。中学校では、カリキュラム上博物館へ来館しての体験が難しいことから、2年生の「地域学習」の単元と結び付け、学年全体で取り組んでいます。
	ふるさと浦安作品展発表会をYouTubeで配信していただいたことは、コロナ禍において発表会をみることができない家族や関係者のフォローをしたと思う。前半の音声がよくなかったのが残念である。	発表会の配信を行ったことで、出席できなかった御家族をはじめ、より多くの関係者に発表会を観ていただける機会となりました。動画配信については、現在行っている児童生徒向けのものに加えて、一般向けのものや、学芸員講座の拡充を目指しています。引き続き、動画配信の充実に向けて、環境を整えてまいります。
その他	博物館の動画配信について、学習教材として良質であり、この動画から学ぶ市民、児童・生徒、学校の教員も少なくないと思う。	

協議事項 令和4年度 郷土博物館事業計画(案)について

	意見	回答
展示リニューアルについて	さらに利用者が増え、明るく楽しい郷土博物館になるようなリニューアル工事に期待している。	漁師町時代に加え、埋め立て以降のまちの発展に関する展示を充実させることで、新たな講座、企画展の開催や、学校での学習プログラムの実践へとつなげ、入館者数の増加や、より良い博物館運営を目指してまいります。
	常設展示のリニューアルが楽しみである。たくさんの方に周知していただき、さらなる入館者が増えることを願っている。	
ジュニア学芸員について	ジュニア学芸員事業などの新しい事業を展開されるとともに、これまで成果のあった事業を見直し改善し展開されようとしていることが分かる。これまでの実績・成果を大切に一つ一つの事業をより質の高いものにしてほしい。	3年度に引き続き、博物館でのイベントや体験事業に積極的な参加を促し、ジュニア学芸員としての活動の場を提供してまいります。また、4年度の新規事業である「ジュニア学芸員応用講座」では、学芸員の専門性を生かした講座の受講をおし、児童生徒のさまざまな興味・関心に合わせた活躍の場を広げてまいります。
	新しい事業「ジュニア学芸員応用講座」で、ジュニア学芸員が各自の専門分野をもちますます活躍してほしい。ジュニア学芸員が、楽しく学芸員ボランティアとして活躍できるようにしてほしい。	
	ジュニア学芸員の活動できる機会が増えるとよい。	
事業全般について	アフターコロナの通常活動に期待している。	コロナ禍で制限されていた文化財団体やボランティアの活動について、体験事業の講師やイベント出演などの活動の場の提供とともに、後継者の育成支援に取り組んでまいります。また、コロナ禍において行った、動画配信などの新たな取り組みや、事業内容の見直しを踏まえ、より効果的に事業を提供することで、さらなる充実を目指してまいります。
	例年、同じ内容の事業を実施するだけでなく、ジュニア学芸員のように、毎年ひとつ新しい体験等を創設すると、参加する子供たちも喜ぶ。	リニューアル後も見据え新規事業を検討・展開し、基本コンセプトである「生きている博物館」「リピーターの呼べる博物館」として、引き続き、親子向けの体験教室、大人向けの学芸員講座なども含め、体験事業の拡充を図ってまいります。
	少子化と高齢化がすごいスピードで進展している。浦安市民としてここはぜひ知ってほしいというところを明確にして重点的に啓発を図るべきである。 重点対象は小学校の中学年以下だ。	展示リニューアルにより加わる埋め立て以降のまちの発展について、より多くの市民に知っていただけるよう、重点的に取り組んでまいります。活用推進委員会を通し、学校現場との連携を密にすることで、引き続き、児童生徒の郷土愛を育ててまいります。